

科目名	グローバル政治経済事情		
開講時期	2017年度 前期	開講時限	火曜5限(16:20~17:50)
担当教員	グローバル地域センター 濱下武志(副センター長)、富沢壽勇(副センター長)、小川和久(特任教授)、柯隆(特任教授)、楠城一嘉(特任准教授)、西恭之(特任助教)		
到達目標	世界の政治・軍事・経済の大きな流れを理解する。自然災害の危険や危機管理の対応が迫られる中で、各教員が提供する観点や情報をもとに、グローバルな政治経済事情に関する学生の思考力、判断力を養うことが目標である。		
授業概要	<p>世界経済は長期低迷期に入り、主要国の政治的・軍事的対立が深まる時代が変わった。アメリカは経済的・軍事的力が弱まり、覇権国として、世界の警察官たる機能を果たせなくなった。またEUの経済も停滞から抜け出せない。</p> <p>自由主義国の支配力が弱まったのに対して、権威主義政治体制にある中国は、アメリカに次ぐ経済大国に発展し、ソ連崩壊後のロシアは、権威主義的傾向を強めつつも、豊富な天然資源と武力を生かして、政治大国に復活している。またイスラーム圏では、これまでの欧米を中心としたグローバル経済支配体制とは異なる次元での新たな経済体系の構築を展開している。</p> <p>こうした現在の状況は、世界全体の動向や世界史を色々な観点から研究すると理解可能であって、専門家は、それぞれの立場から多様な解釈を下して、未来を展望している。</p> <p>一方、日本経済は少子化と高齢化によって袋小路に追い込まれ、将来が不安である。そうした中で、私達はどのように生きべきか。グローバル地域センターの教員が、それぞれ固有の見解を講義する。</p> <p>*1、2年生はもちろん、国際経済・政治に関する授業を受講済みの3、4年生の履修も歓迎する(同分野への理解がより深まると考える)。</p>		
授業方法	グローバル地域センターの教員が、オムニバス方式で講義を行う。パワーポイントと配布資料等によって、講義形式を進める。		
授業展開	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日中関係のあり方 ー過去、現在と将来 2. これからのグローバル競争 ー新たな国際関係の形 3. 乱世に生きる ー国力、企業力と人間力 4. 運輸I コンテナ化は世界を変えた 5. 運輸II 石油と天然ガスの運び方 6. 運輸III 旅客機はどこを飛ぶのか 7. 国際水準から日本の平和主義を考えるI 8. 国際水準から日本の平和主義を考えるII 9. 国際水準から日本の平和主義を考えるIII 10. 香港の歴史 11. 華僑・華人と中国 12. 中国史の中のイスラーム 13. イスラーム市場をめぐる政治経済事情 14. 地震・防災に関する政治経済事情 15. アジアの中の日本 ー選択された日本の近代 <p>*講義の順番は、変更する場合がある。</p>		
履修条件	授業の3分の2以上に出席すること。		
評価方法	学習シート(授業後の感想、疑問等を記入)・小論文・レポートなどによる。		
テキスト	随時プリントを配布する。	参考書	グローバル地域センターホームページ掲載の論文・コラム 各講師の著作とホームページ
社会人聴講生履修可(ただし、学生向けのカリキュラムとすることを理解いただける方)	科目等履修生履修可(ただし、学生向けのカリキュラムとすることを理解いただける方)		